

基礎看護学実習Ⅱ（看護過程と臨床判断）

I. 目的

対象を総合的に理解し、看護過程の展開と臨床判断ができる基礎的能力を養う。

II. 目標

1. 対象を理解するために必要な情報収集ができる。
2. 得られた情報をアセスメントし、看護上の問題を見出すことができる。
3. 対象の看護上の問題を解決するための看護計画が立案できる。
4. 看護計画に基づき対象の状況に応じて援助が実施できる。
5. 実施した看護を振り返り評価できる。
6. 対象との関わりを通して、専門職者として必要な態度を身につけることができる。

III. 実習時期

2年次前期

IV. 実習場所

岡山医療センター : 7A・7B・8A・8B・9A・9B・10A・10B・西4

金川病院

南岡山医療センター : 1階・2階西・3階・4階・

福山医療センター : 7・5A・5B

III. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. 対象を理解するために必要な情報収集ができる。	1) 情報源に応じた方法で情報収集ができる。 2) 身体的側面の情報収集ができる。 3) 精神的・社会的側面の情報収集ができる。	患者、家族、医療従事者、診療記録、検査データ、看護記録 観察、コミュニケーション、バイタルサイン測定 身体的側面 疾病、症状、治療方針、治療内容、ADLの状態等 精神的側面 疾患や症状に対する思い、健康認識 健康管理、精神的動揺、不安等 社会的側面 社会的役割、家族構成、キーパーソン、生活歴、生活状況等
2. 得られた情報をアセスメントし、看護上の問題を見出すことができる。	1) データの解釈・分析ができる。 2) 集めた情報から関連性を考えて全体像が述べられる。 3) 対象に必要な看護上の問題を見出すことができる。	生理的ニードの充足状況、健康逸脱の有無、健康逸脱の原因・誘因、成り行き、看護の必要性 情報と情報の関連性 健康上の問題とその原因・誘因

実習目標	行動目標	学習内容
3. 対象の看護上の問題を解決するための看護計画が立案できる。	1) 対象の看護上の問題の優先順位を述べられる。 2) 目標の設定ができる。 3) 対象の安全・安楽を考慮した看護計画が立案できる。 4) 対象の自立性を考慮した看護計画が立案できる。	優先度の判断 長期・短期目標 対象を主語にした目標表現、RUMBA に沿った目標表現、目標達成日 観察計画 (OP)・援助計画 (TP)・教育計画 (EP)、安全・安楽の考慮 自立性の考慮、具体的に5W1Hで表現、根拠に基づいた計画立案
4. 看護計画に基づき対象の状況に応じて援助が実施できる。	1) 実施前に、実施可能かどうか臨床判断し、計画の見直しを行いながら実施できる。 2) 看護計画に沿って、根拠に基づきながら実施できる。 3) 対象の安全・安楽を考慮した援助が実施できる。 4) 実施前・中・後の患者の反応を観察できる。 5) 実施した援助を客観的に述べられる。	援助の実施 実施可能かどうかの臨床判断 実施前の計画の見直し 看護計画に基づいた日常生活の援助 食事、排せ、清潔、移動、更衣 生活環境の調整等 安楽・自立性の考慮、プライバシーの保護 生活習慣の考慮 対象の反応の観察、対象の希望の確認 患者の反応 (Sデータ、Oデータ)、実施した内容、専門用語を用いた記載
5. 実施した看護を振り返り評価できる。	1) 実施した看護を振り返り、目標の評価ができる。 2) 看護過程のプロセスを振り返ることができる。 3) 看護上の問題、目標、看護計画の追加・修正ができる。	目標の達成度の評価 達成レベル、現実性、目標達成日の妥当性 看護過程のプロセスの振り返り 達成できなかった原因について考察 (情報収集の妥当性、看護問題の妥当性、計画・実施の妥当性) 追加・修正 目標の修正、計画の追加・修正
6. 対象との関わりを通して、専門職者として必要な態度を身につけることができる。	1) 相手を尊重した態度で接することができる。 2) チームのメンバーとして協調した態度、連携、行動がとれる。 3) 積極的に自分の意見が述べられる。	挨拶、対象への敬意を持った対応、言葉使い、身だしなみ 報告・連絡・相談、自己の課題達成に向けての学習、時間管理、健康管理 より良い看護を目指しての意見交換、他者の意見を尊重し自分の考えを表現